

研究テーマ

ヘルスプロモーターの役割を担う児童を育てる指導の工夫

提案者 久保田 美 穂

I 研究テーマについて

1 テーマ設定の理由

近年、「学校を中核とした地域社会や家庭のもとに包括的に進める総合的な健康づくり運動」として、ヘルスプロモーター・スクールが展開されている。これはWHOにより1986年のオタワ憲章にて提唱された新しい健康観に基づく健康戦略「ヘルスプロモーション」の一環であり、1990年代に入り具体的提案として世界に示されたものである。ヘルスプロモーター・スクールは児童生徒等だけでなく、教職員、家族、地域構成員の健康改善にも努力するという特徴を有しており、このような活動を推進するサポーターとして、ヘルスプロモーターの必要性が指摘されている。ヘルスプロモーターとは、自分自身の健康づくりと共に、他者の健康づくりも推進していくことができる者のことを言う。このような役割を担う児童を育成することによって、個から集団（学級・家族）へと健康づくりが広がっていくことを本研究はねらいとしている。

ヘルスプロモーターの役割を担う児童を育成するために、昨年度はその初期段階として第3学年を対象に、児童自身の健康づくりを基盤として、児童が他者の健康づくりにも目を向けられるように研究を進め、成果を上げることができた。そこで本年度は第4学年を対象に、他者に働きかけを行うための素地を培いたいと考える。培う素地としては、①他者に働きかけを行う際の基本的な考え方を理解することと、②実効性のある支援を見いだすことに取り組む。

①のために、健康信念モデル（Rosenstock、Beckerら）に基づいた学習活動を設定する。この理論は、危機感を実感したり、健康行動を実践していくことによるプラス面がマイナス面よりも重大であることを実感したりすることによって、健康行動を実践していくことができるようにする理論である。具体的には、他者が生活改善できるようにするために、健康行動の有用性（健康行動を実践していくことによるプラス面）に基づいた言葉がけで説得することによって、成長期の生活の仕方を教授するという学習活動を設定する。その際、説得する児童への反論を、健康行動を実践していくことによるマイナス面で返答していく。このやりとりを通して、健康行動を実践していくことによるプラス面とマイナス面を比較し、プラス面がマイナス面よりも重大であることを実感することによって、健康行動を実践していくことができるようにする。この基本的な考え方を、学習活動を通して体験的に理解することは、ヘルスプロモーターとしての実効性のある提案を可能とする。

また、②のために、事後の活動として学級活動（保健指導）にて、自分自身の生活改善の取組をヘルスプロモーターの視点で振り返ることによって、実効性のある支援を見いだすことができるようにする。そして、それを掲示物にまとめて示すことによって、実効性のある支援を学級全体で共有し、今後の他者への働きかけに生かせるようにする。

①②のような、他者に働きかけを行うための素地を培うことがヘルスプロモーターの役割を担う児童を段階的に育成していくことにつながると考え、本研究主題の下、研究を進めることとする。

2 主題にせまるための方策

視点 1

健康信念モデルに基づいた学習活動を設定することによって、他者に働きかけを行う際の基本的な考え方を理解することができるようにする。

- 手立て 他者が生活改善できるようにするために、健康行動の有用性（健康行動を実践していくことによるプラス面）に基づいた言葉がけで説得することによって、成長期の生活の仕方を教授するという学習活動を設定する。その際、説得する児童への反論を健康行動を実践していくことによるマイナス面で返答していく。このやりとりを通して、健康行動を実践していくことによるプラス面とマイナス面を比較し、プラス面がマイナス面よりも重大であることを実感することによって、健康行動を実践していくことができるようにする。この学習活動を通して他者に働きかけを行う際の基本的な考え方を理解できるようにする。（4/4時（本時））

視点 2

自分自身の生活改善の取組をヘルスプロモーターの視点で振り返ることによって、実効性のある支援を見いだすことができるようにする。

- 手立て 他者に支援してもらって助かったことと、他者に支援してもらいたかったことという視点で取組を振り返る。それを掲示物にまとめて示すことによって、実効性のある支援を学級全体で共有できるようにする。（事後の活動（学級活動（保健指導）））

